



特集：学術リポジトリって何だ？

イカさん、タコさんの 学術リポジトリQ&A

熊本弁エディション



1 (イカさん) 「学術リポジトリ」 ちゃ、ど
ぎゃんとね？



(タコさん) 学術リポジトリとは機関リポジ
トリ (Institutional Repository) とも呼
ばれておるのじゃが、要するに大学等で生産され
た学術成果・論文を公開するサーバのことじゃ
の。大学等の研究機関で生産された様々な学術成
果を電子的に収集・蓄積・保存して、それを学内
外に無償でインターネット上に公開するのじゃ。
すなわち大学等において設置される学術成果コレ
クション、もしくは学術生産物のショーケースと
呼べるものじゃ。



2 (イカさん) こつで公開すつ学術成果ちゃ、
どげなもんがあると？



(タコさん) 学術雑誌の掲載論文、紀要論文、
博士論文、科学研究費成果報告書、会議発
表資料、図書やその一部、講義資料等の教材等が
考えられるな。ファイル形式はテキスト、WORD、
HTML、PDF、PPTや動画等、たいていのものは掲
載可能じゃな。ただ、公開後の利用や改変等も考
えるとPDF形式にしておいた方が無難かもしれん
な。ファイル形式の変換については、附属図書館
に相談しても良いようじゃぞ。



3 (イカさん) 利用者のメリットちゃ、どげ
んとこにあつと？



(タコさん) 特に発表されていても目につき
にくく、図書館等で保存されにくい資料
等についてリポジトリシステムで公開するのは意

義のあることじゃ。また雑誌掲載論文についても、
高価な契約価格を強いる電子ジャーナルの恩恵に
あずからない研究者にとって、著者版にその多く
は限られるとはいえ、ほぼ同一内容の研究成果を
入手できるという福音となるものじゃ。



4 (イカさん) 世界や日本じゃ急速にリポジ
トリの設立が進んどるとてね。Roaster (R
egistry of Open Access Repositories (注1))
によつと、世界中で754 (米国200、英国79、ドイ
ツ68、ブラジル45、カナダ32、日本19) のリポジ
トリが登録されとるとてたいね。日本じゃ平成17
年度に国立情報学研究所のCSI事業として19大学、
また18年度はこれを含めた57大学に事業委託され
とつとげな。こぎゃん急速にリポジトリの推進が
はかるわけちゃいったい何だろか？



(タコさん) 簡単に言うと次の2つじゃ。
① シリアルズクライシスという言葉に代
表される学術情報流通の危機という問題。
② それに対する研究者機関、個人および団体や
学会によるオープンアクセスへの取組み。



5 (イカさん) おい、そつじゃいっちょんわ
からんばい。「シリアルズクライシス」ち
や何のこつね？



(タコさん) 学術ジャーナルを発行している
欧米の大手商業出版社がその価格を引き
上げ、研究図書館が購入点数を削減せざるを得な
くなり、さらに学術ジャーナルの価格があがると
いう悪循環に陥ってしまったのじゃ。特にこの傾

向はSTM系（科学、技術、医学）の分野で顕著じゃぞ。日本の大学でも雑誌への支出額が増加しているにもかかわらず、購読するタイトル数は激減するという現象が起こっている。（1980年代終わりに40,000タイトルほどあったものが2000年代には20,000タイトル程度と減ってしまった。）

（注2） こういう状況は研究者にとっても、自分の学術成果を発表しても、それを読んでもくれる読者や機会を失ってしまい、従来の商業出版社主導の学術コミュニケーションが崩壊する危険な状況となってきたのじゃ。



6 (イカさん) こいに対す「オープンアクセス」への取組み、ちゃ何のこつね？



（タコさん） これには2つの方法があり、実践されておる。（注3）

- ① オープンアクセスジャーナルの発行
- ② セルフアーカイビング

というのは、掲載論文を無償で利用者に提供するものじゃ。スウェーデンのルンド大学図書館が管理するThe Directory of Open Access Journals（注4）によれば、このサイトに掲載されているオープンアクセス方式の学術ジャーナルは、現在2,300誌以上とある。（2006月10月現在）読者に無料で配信される「オープンアクセス」方式のジャーナルは学術情報流通の一角を占めてきつつあるのじゃ。しかも最近のトムソン・サイエンティフィックの調査では、引用回数では、オープンアクセス方式の学術ジャーナルのいくつかが高い引用率（インパクトファクター）を示しておる。（注5）



8 (イカさん) 2番目「セルフアーカイビング」ちゃ何ね？



（タコさん） 上述のように、オープンアクセスジャーナルの発行や影響が高まってきたが、現在でも、商業出版社が発行する伝統的で権威のある有名な雑誌

によって学術論文は発表されることが多いのう。そこで著者自身がそれらを含めて自分の研究成果（発表論文）を、自分のホームページ上で公開することがセルフアーカイビングじゃ。ただ、学術雑誌に投稿した論文の著作権は出版社に帰属するのが一般的で、著者といえども自分の論文を自由にインターネットで発信することはできなかったのじゃが、最近では、著者に許諾する出版社が増えてきておる。

このような出版社をGreen Publisher、雑誌をGreen Journalと呼んでおる。



7 (イカさん) 「オープンアクセスジャーナル」から説明してはいよ。



（タコさん） オープンアクセスジャーナルと





9 (イカさん) Green Journalちゅ〜もんも、もうちょっと詳しく教えてはいよ。



(タコさん) RoMEOプロジェクト^(注6)の調査によれば、海外学術雑誌の94%がプレプリント、もしくはポストプリント、もしくはプレプリントとポストプリントの両方をセルフアーカイブすることを許諾しておく。ただし、出版社がレイアウトした出版社版をそのまま公開することは、許可されていないことが多いので、著者の手元にある最終確定原稿(著者最終版)をアーカイブすることになるのじゃ。



10 (イカさん) 大学としてのリポジトリのメリットちやどぎゃんこっね?

(タコさん) 登録し公開することによって、Google等のサーチエンジンから検索しアクセスされることとなり、可視性(Visibility)を飛躍的に高めることができるのじゃ。物理学分野では、オープンアクセスにした論文がそうでない論文の約5.6倍多く引用されたという統計結果が報告されたほどじゃ。^(注7)

また、散逸しがちな電子的な知的生産物を一元的に確実に蓄積、保存して後世に責任を持って継承していくことができるという利点もあるのお。

さらに大学としても、教育研究成果を公開していくことによって、社会に対する説明責任を果たすと共に、先進的研究成果を迅速に公開することで、大学の知名度やブランドイメージを高め、知の創造と発信という大学の使命を果たすことを側面から支えることができるのじゃ。



11 (イカさん) 個人や研究室のホームページで公開すつと、大学のリポジトリに登録すつとはどぎゃん違うと?



(タコさん) どちらの場合もインターネット

のサーチエンジンで検索できるという点においては変わらないのじゃが、リポジトリに登録するにはメタデータ(そのコンテンツに関するデータ。タイトル、作成者、キーワード、抄録など)と一緒に登録するのじゃ。このメタデータをOAIPMH (Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting)^(注8)という国際標準のプロトコルに準じて提供し、国立情報学研究所のJuNii^(注9)やミシガン大学のOAIster^(注10)などの、全国規模、世界規模のリポジトリにハーベストしてもらうことによって、ここからも他機関のリポジトリデータと一元的に検索可能となり、アクセスされる機会を増やすことができるのじゃ。



12 (イカさん) 熊本大学学術リポジトリにや、誰が登録でくつと?



(タコさん) 熊大の構成員、もしくは構成員であった人なら可能じゃが、登録しようとするコンテンツの作成に関与した人でなければならん。また、複数の著作権者がいる場合には、自分以外の著作権者から許諾をとっておく必要があるのお。



13 (イカさん) どぎゃんして登録すつと?



(タコさん) 二通りの方法がある。熊本大学学術リポジトリのホームページにアクセスすると、そこには上のほうに「論文の投稿・確認」というリンクがある。そこからログインするとオンラインで投稿できるのじゃ。ログインについては熊本大学統合認証を利用しているのでSOSEKI等と同じID、パスワードを利用するのじゃ。論文原稿もここからアップロードできる。他には、メール等で図書館あてに論文原稿とその論文に関する情報(タイトル、著者名、掲載誌等)を送れば図書館側でメタデータを作成して代行登録ということじゃぞ。その際はこれも様式がリポジトリ

のホームページにある「電子化のための申請書」に署名して提出するということじゃ。^(注11)

ること、保存や利用の便宜のため複製・媒体変換することを附属図書館に無償で許諾することは必要じゃ。



14 (イカさん) 熊本大学学術リポジトリに登録すると、著作権はどげんなった？



(タコさん) 著作権が附属図書館に移転するということはない。ただし、コンテンツを複製してリポジトリのサーバに格納すること、ネットワークを通じて不特定多数に無料で公開す

登録希望、ご不明な点、ご質問等があれば、附属図書館電子情報担当までお気軽に問い合わせください。

(内線2224、denjo@lib.kumamoto-u.ac.jp)

<注>

- 1) Registry of Open Access Repositories <<http://archives.eprints.org/>>
- 2) 日本学術会議情報学研究連絡委員会学術文献情報専門委員会「電子的学術定期出版物の収集体制の確立に関する緊急の提言」2000. 6. 26 <http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/17htm/17_44.html>
- 3) BOAI (Budapest Open Access Initiative) は、オープンアクセス実現のためにこの2つの戦略があることを明確に提示して、その後の議論に多大な影響を与えました。 <<http://www.soros.org/openaccess/read.shtml>>
- 4) DOAJ <<http://www.doaj.org/>>
- 5) Lila Guterman, "The Promise and Peril of 'Open Access'", The Chronicle of Higher Education, January 24, 2004, p. A10.
- 6) Journal Policies - Self-Archiving Policy by Journal <<http://romeo.eprints.org/>>
SHERPA/RoMEO: Publisher copyright policies & self-archiving <<http://www.sherpa.ac.uk/romeo.php?all=yes>>
- 7) Stevan Harnad, Tim Brody, "Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals", <<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>>
- 8) The Open Archives Initiative Protocol for Metadata Harvesting
<<http://www.openarchives.org/OAI/openarchivesprotocol.html>>
- 9) 大学Webサイト資源検索 (JuNii) <<http://ju.nii.ac.jp/>>
- 10) OAister <<http://oaister.umd.umich.edu/o/oaister/>>
- 11) 熊本大学学術リポジトリ投稿方法 <<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/reposit/contribution.html>>

参考文献：

特集=学術情報リポジトリ 情報の科学と技術. 55(10) [2005]

* このQ&Aは、「京都大学図書館機構報 静脩」43(1), 2006. 8 の「機関リポジトリ入門」を参考に作成させていただきました。